

中国語の譲歩条件マーカ―“別管”から見る間主観的意味からテキスト的意味への拡張

朱, 冰
九州大学大学院言語文化研究院 : 准教授

<https://doi.org/10.15017/7318910>

出版情報 : 言語文化論究. 53, pp.61-71, 2024-11-05. Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University
バージョン :
権利関係 :



中国語の譲歩条件マーカー“別管”から見る 間主観的意味からテキスト的意味への拡張

朱 冰

1. はじめに

「無関係 (irrelevance)」の意味に係る表現を用いて譲歩条件 (concessive conditional) を表す (例: *no matter*) ことは、ヨーロッパの諸言語をはじめ、通言語的に観察されている (Haspelmath and König 1998, Bossuyt 2022)。中国語の“別管”もその一例と見なすことができる。“別管”は、禁止を表す副詞“別”と動詞“管” (「構う、気にかける」) の組み合わせに由来したもので、「～に構わないで」「～に気かけないで」のような禁止命令の意味から、「～であろうがなかろうが」「どんなに～であろうとも」のような譲歩条件の意味への文法化経路を辿ってきた。標準語辞典およびこれまでの研究では、“別管”はすでに“连词” (接続詞) と位置づけられるようになり、譲歩条件を表す典型的な接続詞“无论”や“不管”を用いて注釈されている (例: 《现代汉语词典 (第7版)》, 吕叔湘 1999, 董秀芳 2011)。しかし、(1) が示しているように、“別管 P, Q”における“別管”について、譲歩条件を表す接続詞と解釈されながらも、話し手が聞き手に対して「P を無視して、Q に注目しなさい」と働きかけるニュアンスを強く読み取れる例が散見される。

- (1) 那你能怎么办? 你又不能拉她去流产。**别管**海藻是不是真爱他, 目前来看, 海藻是不愿意抽身的。
「じゃ、あなたは何ができるの? 彼女を中絶させるわけにはいかないし。海藻が彼を本当に愛しているうがいまいが、今のところ、海藻は身を引く気がないんだ。」

(CCL 現代¹)

さらに、(2) のように、話し手が相手の発話内容を引用して譲歩条件を構成し、そして動詞“管”の動作主と考えられる2人称主語“你”が挿入される場合、禁止命令の解釈も可能であり、解釈上の曖昧性が生じることがある。

- (2) 再过一周, 张凯又眨巴着眼睛来问拉拉: “拉拉, 这管理培训生要是带得不好, 会不会影响你呀?”

「さらに1週間後、張凱はまたまばたきをしながら、『拉拉、この管理職研修生の世話ができなかったら、あなたに影響しちゃうんじゃないか。』と拉拉に尋ねてきた。」

拉拉说: “你别管影响不影响我, 有啥情况你直说吧。”

『私に影響するかどうかに気かけないで、何かあったら率直に言いなさい。』と拉拉は言った。」

元の禁止表現が持つ発話力 (illocutionary force) が残存し、そして形態上の高い透明性を持つことから、譲歩条件を表す“別管”の文法化の度合いが、“无论”や“不管”のような接続詞ほど進んでいないと言える。本研究では、共時的に観察される以上のような現象は、“別管”の文法化の度合いに関係しているのみならず、間主観的意味 (intersubjective meaning) とテキスト的意味 (textual meaning) の間の拡張関係も反映されていると考えている。以下、第2節では、本研究の主な理論的枠組である間主観性のタイポロジーを紹介した上で、第3節では、通時的なコーパス調査に基づき、譲歩条件マーカー“別管”の成立プロセスを概観する。第4節では、共時的に見られる“別管”の間主観性を分析する。最後に、第5節では、本論文の内容をまとめるとともに、間主観的意味とテキスト的意味の拡張関係を考える。

2. 間主観性のタイポロジー

間主観性 (intersubjectivity) をめぐって、これまでの研究では様々なアプローチから捉えてきた。Nuyts (2001) は、モーダルの意味 (modal meaning) に焦点を絞り、間主観的意味がモーダルの判断をする話し手と他者との間で幅広く共有されるものとしている。Verhagen (2005) は、認知文法の枠組みにおいて、間主観性を話し手と聞き手の間の認知的協働と考えている。Tantucci (2021) は、間主観性のある表現によって表される余剰の意味であり、発話された内容に対する特定の、またはすべての聞き手への潜在的な反応と定義している。一方、Traugott (1995, 2003, 2010) による(間)主観性の一連の研究では、話し手(または書き手)による聞き手(または読み手)の社会的自己への注意を間主観性とし、通時的に間主観的意味への変化を間主観化 (intersubjectification) と定義している。間主観性の捉え方は、研究者によって異なるが、いずれも話し手と聞き手の間のインタラクションに注目しているという共通点が見られる。

Ghesquière et al. (2012) は Traugott (2003, 2010) による間主観性の捉え方を踏まえ、間主観性を次のような3つの下位タイプに分類している。

- (3) a. 態度的間主観性 (attitudinal intersubjectivity)
- b. 応答の間主観性 (responsive intersubjectivity)
- c. テキストの間主観性 (textual intersubjectivity)

日本語の対者敬語 (例:「～ます」、「～です」) のように、聞き手との関係や聞き手のフェイス・社会的地位などに対する話し手の配慮をコード化する表現は、〈態度的間主観性〉を表すものとしている。英語の付加疑問文 (例: *isn't it?*) のように、談話の進行・継続を保つために聞き手に何らかの応答や行動を誘発する効果を持つ表現は、〈応答の間主観性〉を表すものとしている。この2種類の間主観性は、Traugott (2003, 2010) による間主観性の定義に基本的に合致していると考えられる。さらに、Ghesquière et al. (2012) は Diessel (2006) が提示した「共同注意 (joint attention)」の概念を敷衍し、〈テキストの間主観性〉という下位タイプを同定した。Diessel (2006) は、共同注意は、ある発話状況において、対談者の注意力に対する統合だけではなく、談話そのものの統合にも重要な役割を果たしていると指摘した。焦点化・背景化する表現 (例: 指示詞) のように、話し手と聞き手の間の共同注意を作ることによって、聞き手を誘導し、特定の指示対象に注意させたり、テキストの内部関係を解釈させたりすることから、間主観的なものでもあるとされている。

3種類の間主観性の関係について、Ghesquière et al. (2012) は、境界線がはっきりしている離散的な関係ではなく、むしろ連続しており、1つの表現が複数タイプの間主観性を同時に表すことが可能だと考えている。例えば、〈態度的間主観性〉と〈応答的間主観性〉が密接な関係を持っており、(4)における英語のヘッジ機能を持つ付加疑問文 *shall we?* のように、両者を持ち合わせる人が多いとされている。

- (4) A Erm but it's an interesting point. I don't know.
 B No.
 A We'll have to find out what our listeners think *shall we?*
 B Yes okay.
 A Okay Arnold. Thanks for raising that one.

(Kimps 2007: 278)

さらに、通時的に応答的間主観性からテキストの間主観性への拡張が存在する可能性が高いと指摘され、両者の密接な関係性も示唆される。

Ghesquière et al. (2012) が提案した以上のような間主観性のタイポロジーは、これまでの間主観性に対する定義を精緻化し、間主観性の異なる側面をより明快に示している。特に、テキストの間主観性という捉え方は、談話・テキストの結束性に貢献する表現における対人的側面を強調し、テキスト的意味と間主観的意味の密接な関係を示唆している (Brebán 2010, Carlier and De Mulder 2010 も参照)。中国語の“別管”は、譲歩条件を表す接続詞としてテキストの結束性に貢献している一方、相手への働きかけという対人的側面も有することは、このテキストの間主観性の捉え方にも合致しているのではないかと推測される。

3. 譲歩条件マーカー“別管”の発達

孤立語である中国語は、形態的手段を用いて禁止の意味を表すことはできないが、現代語では (5) のように、“別”“不要”のような否定を表す副詞を動詞の前に挿入することにより、禁止または否定の命令を表すことは可能である (Li and Thompson 1981:455-456; van der Auwera and Lejeune 2013)。

- (5) 你 别 打 人。
 あなた 禁止 殴る 人
 「人を殴るな。」

(Li and Thompson 1981: 455; 一部変更)

一方、“管”は、現代語において多様な意味を表している言葉である。名詞(「管、パイプ」「管楽器」)や(管状のものを数える) 類別詞として使用されるほか、動詞として「管理する」「保証する」「構う、気にかける」といった意味用法も持ち合わせている。禁止を表す“別”と“管”が共起する場合、(6)が示しているように、話し手が聞き手に対して、特定の事柄または人と関わることを阻止している。

- (6) a. 你**别管**，我是总经理，这事我负责。
 「口出しするな。私が社長だ。私が責任者だ。」
 b. 你们**别管**我，快去追凶手。
 「私に構わないで、早く犯人を追ってくれ。」

前述の通り、“别管”という組み合わせは、以上のような禁止命令の意味を表すほか、譲歩条件マーカーの機能も獲得している。Haspelmath and König (1998) による類型論の研究では、(7) のように3種類の譲歩条件の構文が同定されている。

- (7) a. 尺度的譲歩条件 (scalar concessive conditionals)
Even if we do not get any financial support, we will go ahead with our project.
 b. 選言的譲歩条件 (alternative concessive conditionals)
Whether we get any financial support *or not*, we will go ahead with our project.
 c. 全称的譲歩条件 (universal concessive conditionals)
No matter how much (/ *However* much) financial support we get, we will go ahead with our project.

(Haspelmath and König 1998: 563)

この分類に中国語の譲歩条件マーカーを照らし合わせれば、“别管”は、譲歩条件を表す典型的な接続詞“无论”や“不管”と同じ、〈尺度的譲歩条件〉を表すことはできないが、〈選言的譲歩条件〉(8a)と〈全称的譲歩条件〉(8b)を表すことはできる (Bossuyt 2022: 23も参照)。²

- (8) a. **别管**喝没喝过，几乎每个中国人都知道青岛啤酒。
 「飲んだことがあろうとなかろうと、ほとんどの中国人が青島ビールを知っている。」
 b. 有一点，我们今天都明白了，**别管**是多么了不起的技术，不进入市场，只能是花瓶，是摆设。
 「われわれは、今日すでにわかったことが1つある。それは、どんなに優れた技術であっても、市場に参入しなければ花瓶や飾りにしかない。」

譲歩条件マーカーとしての“别管”の通時的発達について、管見の限り、まだ十分に考察されていない。通時的なコーパス調査から、禁止を表す“别”と動詞“管”の組み合わせは、おおよそ17世紀頃の小説に初めて確認された。(9)は明(1368-1644)の末期から清(1644-1911)の初期に書かれた小説『醒世姻縁伝』から抽出した用例で、禁止命令の解釈しかできない。

- (9) 你只**别管**闲帐，与你不相干。
 「余計なことをするな。あなたと関係ないから。」

(CCL, 『醒世姻縁伝』, おおよそ17世紀)

一方、同じ小説から(10)のように、“有无”(「有り無し」)という対立の意味を表す表現が“别管”に続く用例も確認された。

- (10) 狄周道：“说是我没有不说的；但有钱没钱，我是知道的。”

『彼と話してみるけど、彼がお金を持っているかどうかは知っている。』と狄周は言った。」

刘振白道：“你**别管**有无，你和狄大爷说，借十两银子给我，（略）”

『彼がお金を持っているかどうか構わないで、狄おじさんに銀10テール貸してくれと言ってくれ、（後略）』と劉振白は言った。」

（CCL, 『醒世姻縁伝』, おおよそ17世紀）

狄周の発話には、“有钱没钱”（「お金を持っているかどうか」）という対立の意味を表す表現が現れたので、劉振白はそれを引用し、二人称主語“你”も入れる形で「（あなたは）彼がお金を持っているかどうかということに気かけないで、とりあえず狄様に頼んでくれ」と狄周に命令を下しているという解釈が自然である。それと同時に、このような対立の意味を表す表現が含まれる対話の文脈は、譲歩条件の意味を生み出すための環境を作っていると推測できる。つまり、このような文脈環境は、「彼がお金を持っていようがまいが、とりあえず頼んでおく」という語用論的推論を誘発することができ、Diewald (2002) が提案した「非典型的文脈 (untypical context)」に相当するものである。

清の時代に入り、“別管”の用例が増えており、(11)のように、後続する発話が聞き手に対する命令や依頼ではない文脈に用いられる用例も観察されている。

- (11) 展爷说：“要是那人拿去，就是今夜再去也是无用的了。”

『もしあの人を持っていったら、今夜また行っても無駄だ。』と展おじさんは言った。」

蒋爷说：“**别管**是他拿去不是他拿去，我今晚上总得去一次，（略）”

『持っていっただのは彼であろうがなかろうが、私は今夜一度行かなきゃ、（後略）』と蔣おじさんは言った。」

（CCL, 『小五義』, おおよそ19世紀後期）

この例における“別管”は、選言的譲歩条件を導くマーカーとして解釈されるのが自然であるが、展おじさんに対して「持っていっただのは彼かどうかということに気かけないで」という禁止命令の解釈は依然として可能である。つまり、(11)のような文脈は、「橋渡し文脈 (bridging context)」(Heine 2002) または「臨界文脈 (critical context)」(Diewald 2002) に相当するもので、ターゲットの意味である譲歩条件の解釈ができる一方、元の禁止命令の解釈がまだ排除されていない。

さらに、(12)のような全称的譲歩条件の用例も観察されている。

- (12) 你别说了，我今天是给你陪不是的。素常我们哥俩有些言差语错，**别管**怎么样，我们总不是外人，你还能记很么？

「もうやめて、今日は謝りに来たんだ。普段は間違ったことを言ったりするけど、どんなことがあっても、知らぬ仲じゃあるまいし、俺のことを根に持つか。」

（CCL, 『濟公全伝』, おおよそ19世紀末期～20世紀初期）

例(12)における“别管怎么样”は、熟語化の傾向が見られ、もとの禁止命令の解釈が基本的に排除されており、譲歩条件の解釈しかできないが、まだ特定の文脈環境に依存しているので、「転換文

脈 (switch context)」(Heine 2002) の段階にとどまり、特定の文脈から離脱できる慣習化 (conventionalization) の段階に至っていないと考えられる。

以上、“別管”が生起している文脈に焦点を当て、禁止命令から譲歩条件への発達を観察した。“別管”は、清の末期から民国の初期（おおそ19世紀末期から20世紀初頭）の間、譲歩条件マーカーとして成立したものと推測できるが、現代語になってもその文脈依存度が高く、慣習化の段階に至っていないと考えられ、通時的な考察からその文法化の度合いが低いということを再確認できた。

4. “別管”の間主観性

禁止表現としての“別管”は、例(6)が示しているように、自分の指示通りに行動させるよう聞き手に働きかけるもので、Ghesquière et al. (2012) が提案した間主観性のタイポロジーに従えば、典型的な「応答的間主観性」を表しているものとなる。一方、譲歩条件マーカーとしての“別管”は、選言的譲歩条件または全称的譲歩条件を導くことにより、譲歩条件構文を構成し、テキストの統合に貢献していることから、主としてテキスト的機能を果たしているものである。しかしながら、前述の通り、“別管”は、譲歩条件を表す“无论”や“不管”といった典型的な接続詞と比べ、その文法化の度合いが低く、そして禁止表現の発話力を完全に失ったわけではなく、聞き手に対して、“別管”が導く内容を無視するよう働きかけるニュアンスをしばしば読み取れる。言い換えれば、“別管”は、譲歩条件マーカーというテキスト的機能を獲得しているにも関わらず、聞き手への注意という間主観的な一面も有しているのではないかと予想される。本節は、譲歩条件マーカーとしての“別管”の間主観性について分析する。

第1節でも触れたように、“別管”は、特定の文脈環境において、選言的または全称的な譲歩条件を導いている場合でも、禁止命令の意味合いが前景化するため、解釈上の曖昧性が生じることがある。(13)はその典型例である。

- (13) a. 再过一周，张凯又眨巴着眼睛来问拉拉：“拉拉，这管理培训生要是带得不好，会不会影响你呀？”

「さらに1週間後、張凱はまたまばたきをしながら、『拉拉、この管理職研修生の世話がで
きなかつたら、あなたに影響しちゃうんじゃないか。』と拉拉に尋ねてきた。」

拉拉说：“你别管影响不影响我，有啥情况你直说吧。”

「『私に影響するかどうかに気かけないで、何かあったら率直に言いなさい。』と拉拉は
言った。」

((2) 再掲)

- b. “为什么？”代英似乎吃了一惊。

「『なぜ？』代英は驚いた様子だった。」

“你别管为什么，立刻停下来，不要再调查了。如果还需要你帮忙的话，我会随时告诉你的。”

「『理由はどうでもいいから、今すぐ調査をやめてくれ。もしまだ君の助けが必要なら、また連絡するよ。』」

以上のような用例から、(14)のような文脈の特徴を抽出することができる。

- (14) a. 対話において、話し手が相手の発話内容を引用し、譲歩条件を構成する；
 b. 2人称主語が“別管”の前に挿入される；
 c. 主節は、相手に対してさらなる指示命令を下しているものである。

この3つの特徴は、いずれも禁止表現に高い親和性を持っている。相手の発話内容を引用することは、相手への注意が示されており、禁止表現の間主観性にも適合している。“你”のような2人称主語が現れる場合、音声上、弱化されることがあるが、動詞“管”の動作主と見なすことができるので、禁止を表す副詞“別”と動詞“管”との一時的な組み合わせと分析されやすくなる。言い換えれば、“別”と“管”の間にある境界線がまだ完全に消えておらず、形態上、高い透明性を有している。(14c)について、相手に対して禁止命令を下した上で、さらに何らかの指示命令を出すことは、談話上、自然な流れであり、両者は同時に生起しやすい。また、この3つの特徴は、必ずしも全て揃うというわけではない。例えば、(15)のように、2人称主語や指示命令を表す主節が伴わなくても、相手に対して、「海藻が彼を本当に愛しているかどうか」「他の人がどんなことを言ったのか」ということに気かけないよう働きかけていると読み取れる。

- (15) a. 那你能怎么办？你又不能拉她去流产。**别管**海藻是不是真爱他，目前来看，海藻是不愿意抽身的。

「じゃ、あなたは何ができるの？彼女を中絶させるわけにはいかないし。海藻が彼を本当に愛していようがいまいが、今のところ、海藻は身を引く気がないんだ。」

((1) 再掲)

- b. 他跑到当时的副市长刘承全那里诉起苦来。

「彼は当時の副市長であった劉承全のもとに行って、不平を訴えた。」

刘副市长拍着他的肩头，语重心长地说：“**别管**别人怎么说，我支持你。”

『誰が何と言おうと、私はあなたを支持する。』と劉副市長は彼の肩をたたきながら真剣な口調で言った。」

一方、“別管”が対話ではない文脈環境に生起する場合、潜在の読み手に対する働きかけも想定できるが、対話文における使用と比べ、その曖昧性が大分解消される。(16)は新聞記事における用例で、“別管”は基本的に譲歩条件を表す接続詞と解釈される。

- (16) a. 有一点，我们今天都明白了，**别管**是多么了不起的技术，不进入市场，只能是花瓶，是摆设。
 「われわれは、今日すでにわかったことが1つある。それは、どんなに優れた技術であっても、市場に参入しなければ花瓶や飾りにしかない。」

((8b) 再掲)

- b. 目前，互联网大有被神化的趋势。似乎只要互联网发展起来，什么问题都解决了。这一点在股市上最明显，**别管**什么企业，一触“网”顿时身价倍增。

「現在、インターネットは神格化される傾向にある。インターネットさえ発達すれば、すべての問題が解決するように見える。これは株式市場を見れば一目瞭然で、どのような企業であろうと、『ネット』に触れると突然価値が倍增する。」

以上の観察から分かるように、禁止表現に由来した“別管”は、譲歩条件を導くテキスト的機能を果たすとともに、禁止表現から受け継いだ発話力がある程度保持され、顕著な間主観性を有する従属節マーカである。“別管”に見られるこれらの特徴は、Ghesquière et al. (2012) が提案したテキストの間主観性の捉え方に合致している。すなわち、“別管”はテキストや談話そのものの統合に資する共同注意を作ることによって、譲歩条件の内容から注意をそらし、主節の内容に注目させるよう聞き手を誘導する。ただし、Ghesquière et al. (2012) は、テキスト的機能を果たす多くの表現（例：指示詞）がテキストの間主観性を持つと指摘しているが、テキストの間主観性にも程度の差が存在すると考えられる。譲歩条件マーカとしての“別管”は、禁止表現から受け継いだ発話力で直接的に聞き手に働きかけるため、そのテキストの間主観性がより顕著に現れている。

5. まとめ：間主観的意味からテキスト的意味へ

禁止表現に由来した中国語の“別管”は、譲歩条件マーカとしてテキスト的機能を果たしている一方、その文法化の度合いが低いことにより、元の禁止表現が持つ発話力が保持されているため、“无论”や“不管”といった慣習化の度合いが高い接続詞と比べ、相手に働きかけるニュアンスを読み取れることがしばしばあり、その間主観的な側面が顕著に現れている。Ghesquière et al. (2012) が提案した間主観性のタイポロジーは、これまで大まかに捉えられてきた間主観性という概念を精緻化し、特にテキストの間主観性という捉え方は、“別管”のような間主観性が顕著に現れる接続表現の意味特徴を分析するために新たな視点を提供している。つまり、主にテキスト的機能を果たすと見られる表現は、そもそも聞き手への注意という間主観的な一面を併せ持つことがあり、話し手と聞き手との共同注意を構築することによって、テキスト・談話の統合に貢献している。

一方、通時的に、命令表現が条件節や譲歩節を構成する現象は、通言語的に観察されている。“別管”における禁止命令から譲歩条件への拡張も、その一例である。このような拡張経路は、テキスト的意味が間主観的意味から生み出せることを示し、両者の密接な関係が示唆される。さらに、Ghesquière et al. (2012) が提案した間主観性のタイポロジーに基づいて考えれば、このような意味変化のプロセスから、応答の間主観性からテキストの間主観性への拡張が認められる。Ghesquière et al. (2012) が指摘した通り、3種類の間主観性は、離散的な関係ではなく、むしろ連続しているものである。“別管”の用例に見られる解釈上の曖昧性は、“別管”が応答の間主観性とテキストの間主観性からなる連続体に位置していることが反映されているのではないかと考えられる。

注

- 1 本論文における例文は、引用先が特に明記されない限り、北京大学中国言語学研究センター (CCL) コーパス (http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/) から抽出したものである。
- 2 中国語では、〈尺度的譲歩条件〉を表すマーカも存在しているが（例：“即使”）、Bossuyt (2022) が指摘したように「無関係 (irrelevance)」の意味に係る表現に由来した譲歩条件マーカは、〈選言的譲歩条件〉と〈全称的譲歩条件〉しか表せない。

付 記

本研究は JSPS 科研費若手研究 22K13116 「テキスト的意味と間主観的意味の連続性と相互拡張」(研究代表者：朱 冰) の支援を受けている。

参 考 文 献

- Bossuyt, Tom. 2023. "Concessive Conditionals beyond Europe: A Typological Survey." *Studies in Language* 47 (1): 1-31.
- Breban, Tine. 2010. *English Adjectives of Comparison: Lexical and Grammaticalized Uses*. Berlin: De Gruyter Mouton.
- Carlier, Anne, and Walter De Mulder. 2010. "The Emergence of the Definite Article: *ille* in Competition with *ipse* in Late Latin." In *Subjectification, Intersubjectification, and Grammaticalization*, ed. by Kristin Davidse, Lieven Vandelanotte, and Hubert Cuyckens, 241-275. Berlin: De Gruyter Mouton.
- Contemporary Chinese Dictionary* (7th edition) (《现代汉语词典(第7版)》), ed. by Institute of Language, Chinese Academy of Social Sciences, 2016. Beijing: The Commercial Press.
- Diessel, Holger. 2006. "Demonstratives, Joint Attention and the Emergence of Grammar." *Cognitive Linguistics* 17: 463-489.
- Diewald, Gabriele. 2002. A model for relevant types of contexts in grammaticalization. In Ilse Wischer and Gabriele Diewald (eds.), *New Reflections on Grammaticalization*, 103-120. Amsterdam: John Benjamins.
- Dong, Xiufang (董秀芳). 2011. *Cihuihua: Hanyu Shuangyinci de Yansheng he Fazhan* [Lexicalization: the origin and evolution of Chinese disyllabic words] (revised edition). Beijing: The Commercial Press.
- Ghesquière, Lobke, Lieselotter Brems and Freek Van de Velde. 2012. "Intersubjectivity and Intersubjectification: Typology and Operationalization." *English Text Construction* 5 (1): 128-152.
- Haspelmath, Martin, and Ekkehard König. 1998. "Concessive Conditionals in the Languages of Europe." In *Adverbial Constructions in the Languages of Europe*, ed. by Johan van der Auwera, and Donall Baoill, 563-640. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Heine, Bernd. 2002. On the role of context in grammaticalization. In Ilse Wischer and Gabriele Diewald (eds.), *New Reflections on Grammaticalization*, 83-101. Amsterdam: John Benjamins.
- Kimps, Ditte. 2007. "Declarative Constant Polarity Tag Questions: A Data-Driven Analysis of their Form, Meaning and Attitudinal Uses." *Journal of Pragmatics* 39: 270-291.
- Li, Charles N., and Sandra A. Thompson. 1981. *Mandarin Chinese. A Functional Reference Grammar*. Berkeley: University of California Press.
- Lü, Shuxiang (吕叔湘) (ed.). 1999. *Xiandai Hanyu Babai Ci* [Eight hundred words in Modern Chinese] (revised edition). Beijing: The Commercial Press.
- Nuyts, Jan. 2001. *Epistemic Modality, Language, and Conceptualization*. Amsterdam: John Benjamins.
- Tantucci, Vittorio. 2021. *Language and Social Minds: The Semantics and Pragmatics of Intersubjectivity*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Traugott, Elizabeth C. 1995. "Subjectification in Grammaticalisation." In *Subjectivity and Subjectification*,

- ed. by Dieter Stein, and Susan Wright, 31-54. Cambridge: Cambridge University Press.
- Traugott, Elizabeth C. 2003. "From Subjectification to Intersubjectification." In *Motives for Language Change*, ed. by Raymond Hickey, 124-139. Cambridge: Cambridge University Press.
- Traugott, Elizabeth C. 2010. "(Inter) subjectivity and (Inter) subjectification: A Reassessment." In *Subjectification, Intersubjectification and Grammaticalization*, ed. by Kristin Davidse, Lieven Vandelanotte, and Hubert Cuyckens, 29-71. Berlin: Mouton de Gruyter.
- van der Auwera, Johan, and Ludo Lejeune (with Valentin Goussev). 2013. "The Prohibitive." In *The World Atlas of Language Structures Online*, ed. by Matthew S. Dryer, and Martin Haspelmath. Leipzig: Max Planck Institute for Evolutionary Anthropology. <<http://wals.info/chapter/71>> (Accessed September 19, 2023).
- Verhagen, Arie. 2005. *Constructions of Intersubjectivity. Discourse, Syntax and Cognition*. Oxford: Oxford University Press.

From intersubjective to textual meaning: On the Mandarin Chinese concessive conditional marker *biéguǎn*

ZHU, Bing

This paper examines the development from intersubjective to textual meaning in the context of the Mandarin Chinese concessive conditional marker *biéguǎn*, which originated from prohibitives. Previous studies have analyzed *biéguǎn* as a connective conveying a concessive conditional meaning of “whether... or not” or “no matter.” However, compared to other typical concessive conditional connectives such as *wúlùn* and *bùguǎn*, the original directive meaning of the prohibitive expression persists to some extent in *biéguǎn* due to its low degree of grammaticalization. Following Traugott’s (2003, 2010) definition of intersubjectivity, Ghesquière et al. (2012) propose a broader interpretation and a typology for intersubjectivity, including attitudinal intersubjectivity, responsive intersubjectivity, and textual intersubjectivity. The typology proposed by Ghesquière et al. (2012) refines the broadly conceived notion of intersubjectivity. In particular, the concept of textual intersubjectivity provides a new perspective for analyzing the semantic features of connectives with a prominent intersubjective aspect, such as *biéguǎn*. In other words, linguistic devices that are primarily seen as fulfilling a textual function may also have an intersubjective aspect, contributing to the integration of text or discourse by building joint attention between speaker and hearer. This paper posits that intersubjective and textual meanings are closely intertwined and can be simultaneously manifested. The present study contributes to understanding the relationship between intersubjective and textual meanings, offering valuable insights based on Mandarin Chinese.